

特別レッスン（その1）

マーケットで勝つ！ための 先行指標のつかみ方



株式会社原田武夫国際戦略情報研究所

Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.
(IISIA)

Agenda

01 なぜ今、「先行指標」なのか？

02 「遅行指標」しか報じないニッポンのメディア

03 世界のメディアには「先行指標」が溢れている

04 「先行指標」を使ってマーケットに勝つことが出来た実例

05 「先行指標」をとらえることが出来る無料メディア一覧

最後に御案内：「先行指標」を世界中のメディアから読み取りマーケットで利益を得るための会員制サービス

この20年間にわたって、様々なリスクの炸裂・変動が起こりました

2001年



(出典:9.11同時多発テロ 写真特集 JIJI.com
https://www.jiji.com/jc/d4?p=tro813&d=d4_int)

9・11同時多発テロ

2008年



(出典:リーマン・ショックから雇用が回復していない仕事ワースト20
BUSINESSINSIDER
<https://www.businessinsider.jp/post-201502>)

リーマン・ショック

2011年



(出典:東日本大震災 100枚の記録 写真特集 JIJI.com
https://www.jiji.com/jc/d4?p=lat216&d=d4_quake)

東日本大震災

2017年



(出典:ドナルド・トランプ Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/>)

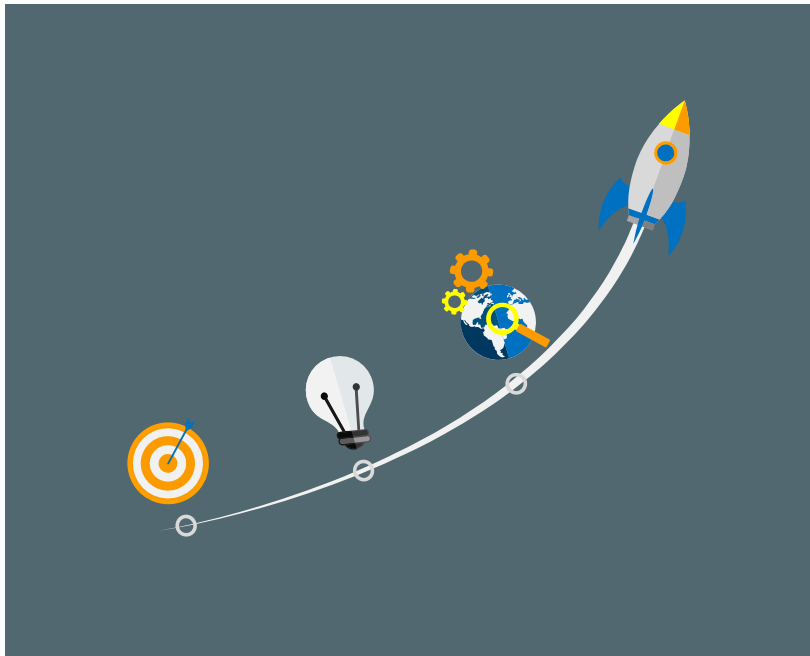
トランプ米大統領誕生

そして、2020年「新型コロナウイルスによるパンデミック発生」等々、
世界はリスクに満ち溢れています。



(出典:新型コロナウイルスのワクチン、いつ誰がどうやって使えるようになるのか
BBC NEWS <https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-54143093>)

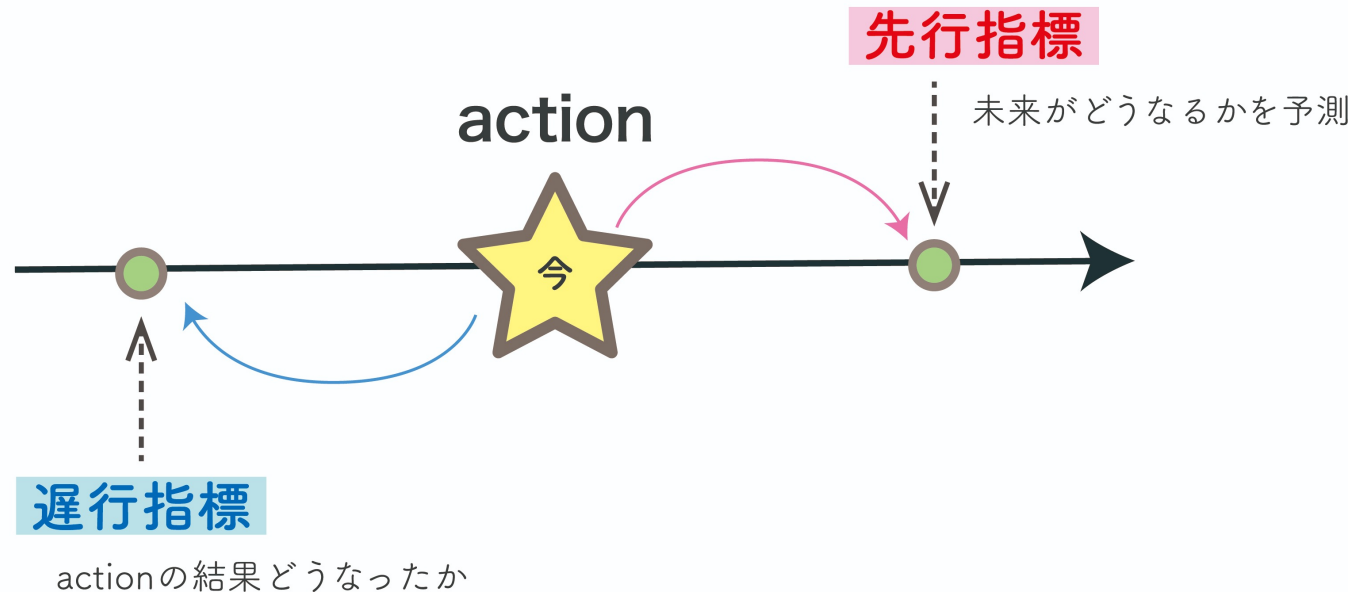
なぜ今、「先行指標」が重要なのか



- ☒ 裏を返せばそうしたリスクの発生を
先取りすることで、巨額の利益を得ることもできた
- ☒ 実際にその様にして利益確定した“勝ち組”もいる
- ☒ 「先行指標（Early Warning Signal（EWS）」を
誰よりも先に掴み取ることで差がつく

結果どうだったのかを見る指標が「遅行指標」ではなく、
先行きがどうなるかを予測できる「**先行指標**」が重要です

「先行指標」と「遅行指標」の違い



仮に、「**先行指標**」を予め察知していれば・・・



日経平均連動型のインデックス投資だけでも、
株価の値上がりを受けて大幅な利益を得ることが可能でした！



マーケットで勝ち抜き、資産形成を着実にするのに必要なのは「先行指標」です
でも・・・、簡単に取れるものでもありません



我が国のマスメディアには「先行指標」が掲載されていません

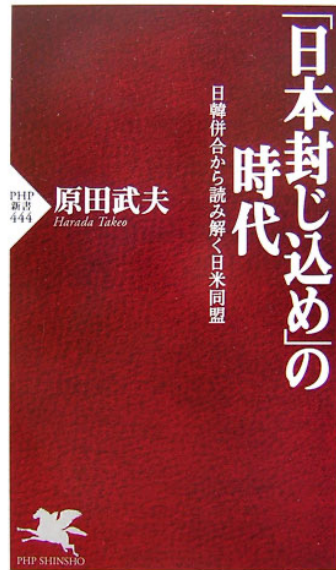


むしろ「**何か起きてからそのことについて報じる**」という意味での「遅行指標」だけなのです

我が国のマスメディア、特に金融・経済メディアが報じる内容だけを鵜呑みにしていても、マーケットで勝つことはほぼ不可能です



(出典:ダグラス・マッカーサー
Wikipedia<https://ja.wikipedia.org/wiki/>



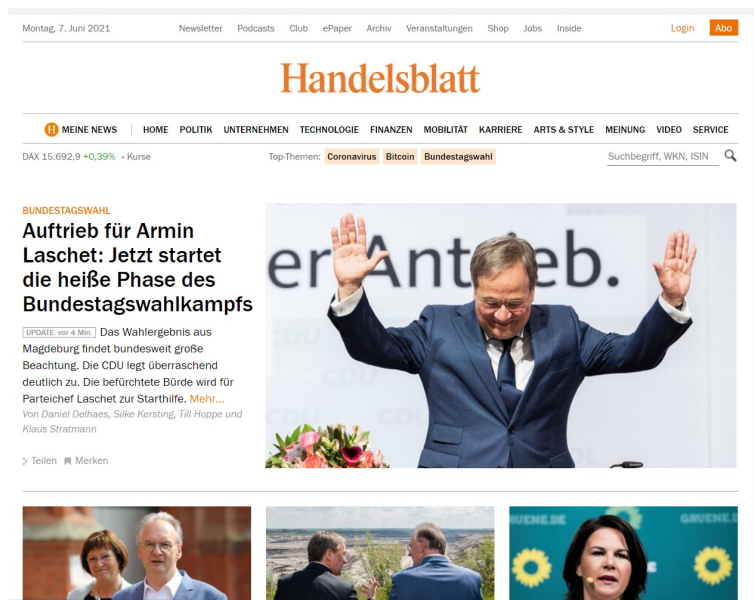
第二次世界大戦敗戦を経て、**占領軍（GHQ）**としてやってきたアメリカが手掛けた我が国のマスメディアに対する徹底的な管理政策



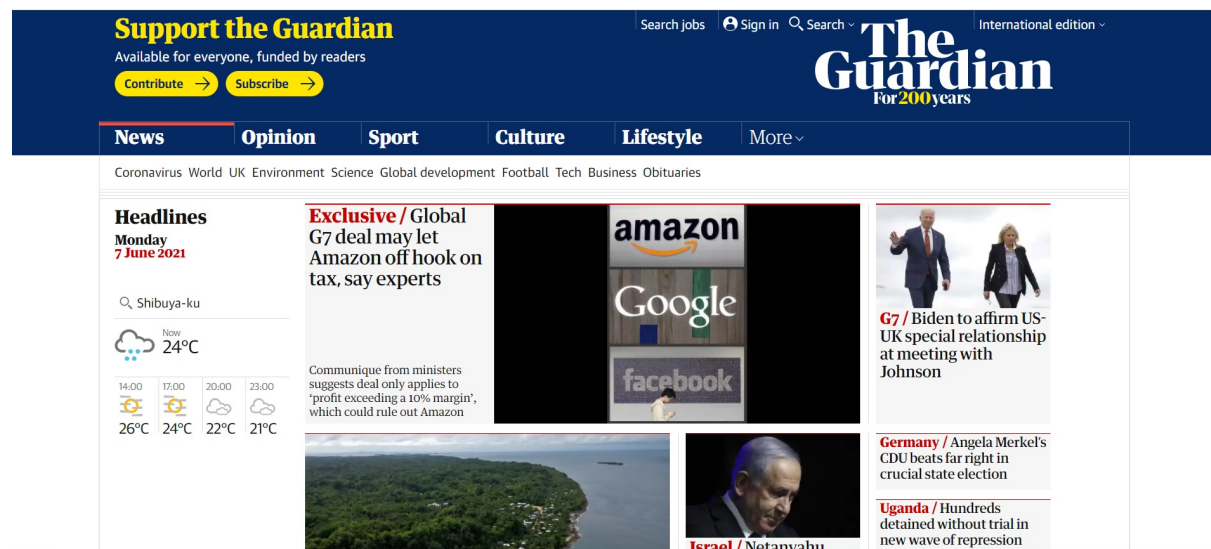
“あくまでも占領統治のために必要な事実関係だけを抜き出し、国民に対して刷り込む”

一方で、世界のメディアには「先行指標」のヒントが溢れかえっています

「先行指標」を数多く報道するメディア、マーケットでこれから起きることについて端的に指摘してくれる便利なメディアもあります

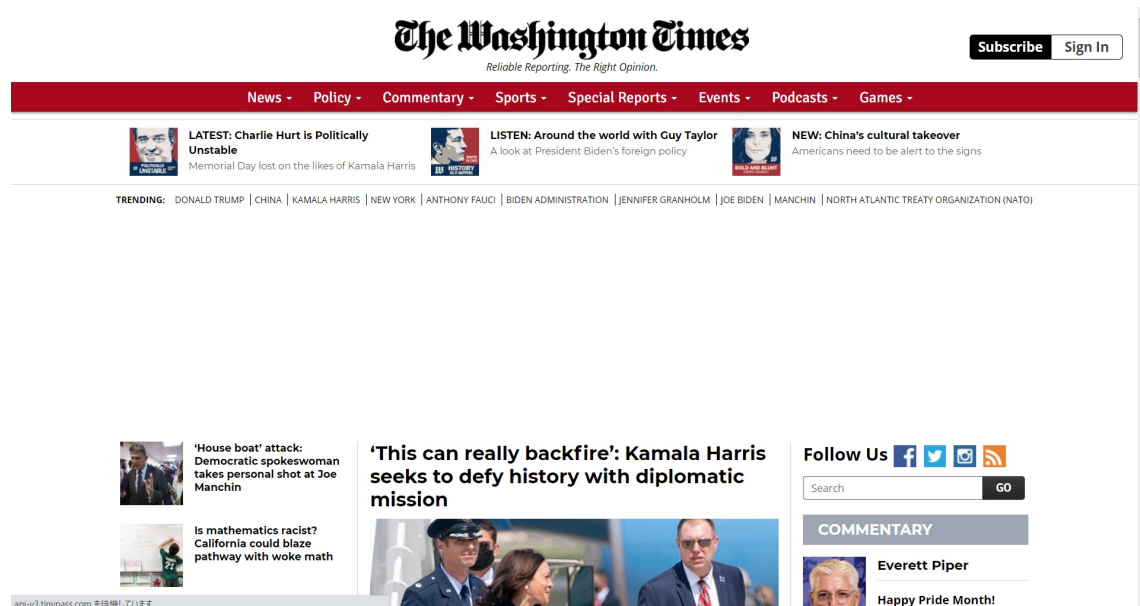


<https://www.handelsblatt.com/>



<https://www.theguardian.com/international>

出来事が起きる前に、「先行指標」となりうる事項を報じています



<https://www.washingtontimes.com/>



<https://www.nzz.ch/>

世界のメディアには「先行指標」のヒントが溢れかえっている、 3つの構造的な理由があります



マーケットは英米、欧州を中心に展開しており、重要な意思決定に現在我が国の関係機関・企業が関与出来ていない



1870年代以来、世界は英独仏3か国に本拠地を置く通信社によって3分割されており、我が国では英(米)系のメディア報道ばかりが流れている

➤ 独仏系のメディアの情報は流れない



金融マーケットにおいても、厳格な「消費者保護のルール」があるために、金融関連のメディアはこれから起きる可能性が高い方向に論ずるよう努力する作用が生まれる

➤ 事前報道は誤った方向への誘導に抑止がかかりやすい

「先行指標」を使ってマーケットに打ち勝つことが出来た直近の例

KOMMENTAR

Ether könnte bald wichtiger sein als Bitcoin

Die zweitgrößte Kryptowährung Ether könnte Bitcoin den Rang ablaufen. Denn sie ermöglicht praktische Blockchain-Anwendungen – und die sind wegweisend für die Zukunft.



Mareike Müller

05.05.2021 - 17:03 Uhr • 1 Kommentar • 3 x geteilt



ドイツ handelsblattが2021/5/5(ベルリン時間)に配信
この時点でイーサリアムは **370,883円**

➤ 「イーサは間もなくビットコインより重要になるかもしれない」



1週間後である12日に最高値（**440,277円**）をマーク
1週間で**18.7%**パーセント上昇

➤ 【**1000万円投資していればたった1週間で187万円も資産を増やすことが出来たということ！**】



その後は急落し、「空売り」をする絶好のチャンスが到来した
（さらに利益確定が出来た）



これが「消費者保護の観点から先行報道には一定の配慮
がなされる典型例」

<https://www.handelsblatt.com/meinung/kommentare/kommentar-ether-koennte-bald-wichtiger-sein-als-bitcoin/27161486.html>

【特別資料】

プロが選んだ

「先行指標」をとらえることの出来る無料メディア例 一覧リスト

<https://www.washingtontimes.com/>

(情報源としてアメリカの各種情報機関がいるのではないかと考えられているサイト。リーク報道が多い。)

<https://www.mcclatchydc.com/>

(アメリカの政界における動きを時に深く切り込むことで知られるメディア。特殊な報道も多い。)

<https://www.zerohedge.com/>

(アメリカ右派の金融サイト。ただし特定のイデオロギー色というよりもエスタブリッシュメントに切り込む特殊情報が多い。)

<https://nsarchive.gwu.edu/>

(アメリカ最大のアカデズム系情報公開分析サイト。ここで記事掲載された地域について動きが生じることが多い。)

<https://www.shine.cn/>

(上海発であることに加え、中国政府の考えがマイルドな形で分かるサイト。中国による次の一手を読み取る材料となる。)

<https://www.straitstimes.com/global>

(シンガポールの代表的な英語メディアであるが、大きな意味で華僑勢力のヒト・カネの動きを示す報道が多い。)

<https://www.theguardian.com/international>

(イギリスにおける高級紙であり、同時に調査報道で知られるメディア。Wikileaksと提携したことでも知られる。)

<https://www.handelsblatt.com/>

(ドイツにおける「日経新聞」に相当するメディア。ただし先行報道を大胆に行うことで知られており、「先行指標」が多数。)

<https://www.nzz.ch/>

(世界有数の金融街があるチューリッヒ発のメディア。スイス国内よりも諸外国に関する精緻な分析・先行報道が多数。)

<https://www.lefigaro.fr/international>

(フランスで最も古い日刊紙。英米とは違いラテン系の見方が出来る。フランスのマジョリティの意見が多数。)

「先行指標」を掴んで成功したい方へのご案内
～1年間で「400万円を1億円にした成功例」もあります！



「**先行指標**を掴み取って自ら成功したい」と御考えの方に朗報です。



この資料でご説明した「マーケットで勝ち残るため先行指標」を平日毎日分析し、「勝つための分析」を提示させて頂いているのが弊研究所の**会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」**です。



創設より14年（2021年現在）継続している注目の会員制サービスであり、900名以上の経営者からサラリーマン、そして一般の主婦の方々まで様々な皆様が会員となっていっしゃいます



弊研究所はいわゆる「投資顧問」ではありませんが、この資料でご説明させて頂いた**「先行指標」を世界の誰よりも早くピックアップし、会員の皆様に提示させて頂くこと**で定評があります



そうした「先行指標」分析をベースに**1年間で元手400万円を1億円（！）にされた方**もいらっしゃいます。



現在、最高ランクであるゴールド会員（月額13万2千円）の皆様へのサービスを2週間「**完全無料**」でご提供させて頂く「**トライアル会員**」を募集しております。数に限りがございます。今すぐ御申込下さい

こちらからお申込み下さい→



トライアル会員の、「サービス内容」は以下の通りです



月～木曜日は15分の
音声テキスト
金曜日は50分ある
音声テキスト



月に1回刊行される
皆様に今知って頂きたい
テーマをお届け

今この瞬間
何が起きているのか
毎日お届けする
分析レポート



Appendix

商号	株式会社原田武夫国際戦略情報研究所 Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.（略称：IISIA）
代表取締役 最高経営責任者	原田武夫
常勤監査役	原田京子
事業内容	国内外情勢に関する調査研究及び教育活動並びに経営コンサルティング業 マーケットとそれを取り巻く国内外情勢に関する分析とそれに基づく未来シナリオの提示をする中で、ヴィジョンに掲げる「Pax Japonica」（※1）の実現のための活動を展開する独立系シンクタンク。原田武夫（代表取締役CEO。2005年まで12年間、外務公務員I種職員として外務省に勤務）が2007年に設立登記。主に全国の中小事業主をメンバーとする会員制サービス（会員数865名（2021年3月現在））を軸に、創業以来急成長を続けている（2019年度売上は前年比145%）。日々発信する調査分析レポートは、2015年7月よりトムソン・ロイターでも配信されている。また米ペンシルヴァニア大学のローダー研究所主催のシンクタンク評価『Global Go to Think Tank Index Report』2020年度版の「注目すべきシンクタンク（Think Tank to Watch）」カテゴリにおいて、日本から唯一31位にランクイン、2019年度からランクアップを果たすなど、グローバル社会においても高い評価を受けている。なお、ファウンダーである原田武夫は2020年度に東京大学教養学部・学生自治体公認の自主ゼミを開講。2021年度は同学部において正規単位認定の「全学研究ゼミナール」を担当 ※1：直訳は「日本による平和」。現状は「課題先進国」である我が国が今後、多様な社会問題の包括的かつ斬新な解決を図らざるを得なくなることで、同様の問題を続々と抱え始める諸外国のモデルへと昇華し、もって新世界秩序が構築されることになるというコンセプト
資本金	3,000,000円（2015年1月現在）
本社所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 郵船ビルディング 3F

弊研究所のケイパビリティ①：シンクタンクとしてのグローバル評価



米国ペンシルバニア大学の「評価すべき世界のシンクタンクランキング」において
2年連続、日本で唯一選出されております



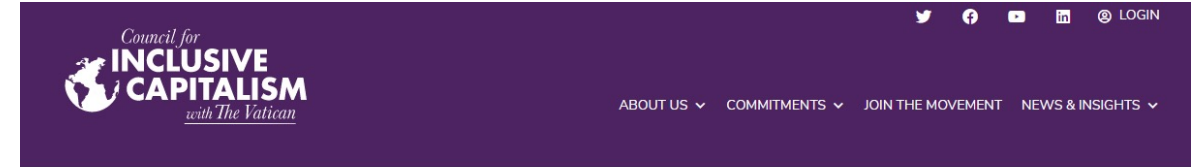
【世界で注目すべきシンクタンク・ランキング（Think Tank to Watch）2020 について】

主催： ペンシルバニア大学ウォートン校ローダー研究所

ランキングレポートの詳細（英語）：["2020 Global Go To Think Tank Index Report" by James G. McGann \(upenn.edu\)](https://www.upenn.edu/think-tank-to-watch/2020-global-go-to-think-tank-index-report/)

弊研究所のケイパビリティ②：グローバルのネットワーク

- ☑ Business 20サミット（B20）のコミッティメンバーであり、Council for Inclusive Capitalism with the Vatican に正式加盟



TAKEO HARADA
| RESEARCH INSTITUTE FOR JAPAN'S GLOBALIZATION (RIJAG)
| PRESIDENT



Takeo Harada is a former Japanese career diplomat (Asian and Oceanian Affairs Bureau, Northeast Asia Division, North Korea Team leader); voluntarily retired in 2005. Since the founding of RIJAG and IISIA, he has devoted his time to expanding "Information Literacy" research and education in various fields through seminars, writings, and lectures in Japan and abroad. He has been a



"Giving the People Hope and Future."

COVID-19: Stringency Index, Apr 24, 2021

This is a composite measure based on nine response indicators including school closures, workplace closures, and travel bans, rescaled to a value from 0 to 100 (100 = strictest). If policies vary at the subnational level, the index is shown as the response level of the strictest sub-region.



パンデミックからの『出口戦略』を探る（IISIA研究員レポート Vol.40）

70年前に発売されたアルベール・カミュの小説『ペスト』に、次のようなセリフがある。「ペストと戦う唯一の方法は誠実さです」... 続きを読む

2021年05月25日

最新刊

最新刊 原田武夫 著書 最新の書籍情報



2016年10月08日

『小夜子とワタシ』：IISIA原田武夫・初

調査分析レポート

調査分析レポート 大手メディアが報じない日本と世界のマーケットとそれを取り巻く国内外情勢の『全体的』



2021年05月06日

『IISIAマンスリー・レポート』2021年5

Our Mission

Giving the People Hope and Future.

私たちは日本と世界の全ての人々に希望と未来がもたらされることを目標に活動します。
あらゆる違いを越えた場づくり、輝くイノベーションをもたらす人材の育成と助言、そして情報リテラシーの研究開発と普及を行います。

IISIA  QUADRI FOGLIO
Giving the People Hope and Future

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所

採用情報

無料会員登録をすると
お得な特典があります

マイページ ログイン

<https://haradatakeo.com/>



会員様からの声



Voice of Customer

- “元外交官・原田代表の独自のネットワークに基づく非公開情報も踏まえ、社会の裏側の出来事から経済動向予想を立てていることで、**起こりうる未来に対して先んじて考えられる**”
- “分かりやすく理論的で信頼ができて**先が分かるので行動がしやすい**”
- “井の中の蛙にならずに、マーケットだけではなく地政学やグローバルアジェンダなども踏まえて、より**俯瞰して独自の視点で組み合わせができることで、自分がどういう心構えで臨めば良いのかを知ることができる**”
- “今後の日本の行く末を明確に提示し、日本だけでなくグローバルの見通しとそれが企業や個人に与える影響を幅広いリソースから提言していただけるので、**“思考の補助線”として活用できる**”
- “個々の商品だけではなく、会員サービスを受けられるとリアルタイムに初心者にもベテランにも向いている”